

文化

【公開講座】 韓国絵本の現代史

～創成期の作家たちは、なぜ固有の文化を描いたのか～

お問い合わせ先

八王子学園都市大学いちょう塾

042-646-5621

申込不要・入場無料

講師	大竹 聖美(こども文化学科 教授)
開講日時	4月15日(土) 10:20～11:50
会場	八王子市学園都市センター(イベントホール)
内容	韓国で初めて現代絵本が出版されたのは1988年のソウルオリンピックの年です。日本では1990年に翻訳出版されました(リュウ・チェスウ作、イ・サンクム/まついただし訳『山になった巨人(백두산 이야기)』福音館書店)。ここから韓国の現代絵本の歴史が始まります。 本講座講師が翻訳したチョン・スンガク『くらやみのくにからきたサブサリ』(アートン)ほか、イ・オクベ『ソリちゃんのチュソク』(セーラー出版)、クォン・ユンドク『マンヒのいえ』(同)など、韓国絵本第一世代の作品を通して、彼らを生み出した社会的背景と思想をさぐります。
対象	18才以上
定員	先着160名
受講料	こちらはいちょう塾の【公開講座】のため、受講料は無料です。
持ち物	筆記用具

講師プロフィール

韓国児童文学翻訳・研究。白百合女子大学大学院文学部児童文学専攻修士課程修了後、日韓文化交流基金訪韓研究員、大韓民国政府招聘留学生としてソウル・延世大学校大学院教育学部博士課程にて博士(教育学)学位取得。アジア児童文学日本センター理事、韓国児童文学学会国際理事、韓国児童青少年文学学会国際理事、日本ペンクラブ・日本文藝家協会会員。優れた韓国の絵本の翻訳・講演等多数。



講師からみなさまへ

私が初めて<韓国>に出会ったのは1988年、ソウルオリンピックの年です。ハングル文字を見たのも、韓国語の響きを聞いたのもこの時が初めてでした。そしてこの年、韓国人作家による初めての現代韓国絵本が誕生しました。それから35年。いまや世界で最も注目される韓国の絵本を通して隣国の歴史と文化に親しみたいと思います。